

「タイ出張で考えたこと」

宮原 豊(9組)

2月中旬の1週間タイに出張しました。5日間にタイの主要な大学8校を訪ねるという強行スケジュールの中で、多くの先生に会い、多くの学生に接して来ました。ものづくりの日本企業に多くのタイの大学理工系の学生に就職してもらうことが期待されていますが、日本企業に対する理解を促すために4年ほど前から主に地方の大学の工学部に「日本企業文化講座」を開設の協力をしてきました。その成果を把握し、今後の計画について相談し、また関係の大学のいくつかで講座の修了式に出席しました。



一昨年 3・11 後に日本の東北地方からタイへ一部の部品・材料が供給ストップしたために世界中のサプライ・チェーンが寸断されたとか、昨年のタイ大洪水でやはり世界への製品や部品の供給がストップしてしまったとか、日本とタイの経済関係は世界の中でも特に緊密な二国間関係となっています。更に、今ではタイはメコン地域の中心としてカンボジア、ラオス、ミャンマーとの関係を強めており、ベトナム、マレーシア、インドネシア、フィリピン、更にインドや中国との経済関係も拡大していますので、今や日本企業にとってタイはアジアだけではなく世界市場の中で重要な位置を占めています。

タイは仏教国として知られていますが、ヒンズー教、イスラム教、中国の道教や儒教の影響も大きく、更に欧米の価値観も上手に取り入れ、人々はそれらを社会にうまく取り込んで融和しているように見えます。タクシン派 VS 反タクシン派の政治対決による騒乱が派手に報道されたように、タイ国内で都市と農村、あるいは富裕と貧困という対立が際立って見えることもあります。しかし、人々は元々穏やかで、微笑みの国と言われるようなお国柄ですから、今は国内どこに行っても想像以上に人心は安定しているように感じました。

80年代末からアジア通貨危機、リーマンショック、政治的対立、大洪水等のショックを、その都度 半年単位くらいで次々と乗り越えて、そこを世界中の人々が行き交い、タイは異文化をどんどん飲み込んで膨張しているようです。今回 会ったタイの人々は成長することに疑いもなく貪欲で、また若い学生諸君の目の色もキラキラと明るかったのが印象的でした。

一方で、タイは大学が増え過ぎていると憂えている先生がいました。職業訓練校では就職後の給料ベースに差が出るので学生の人気が悪い、だから多くの職業訓練校が大学の工学部に衣替えしたそうです。工学部卒は頭でっかちで、現場仕事を回避したがる傾向があるので、それが製造業の力を弱体化させることになるのではないかと憂えているのです。

それに比べると日本の場合は油仕事を厭わないどころか、リーダーとなっても率先して現場でワーカーと一緒に改善活動に取り組む文化があり、それが日本のものづくりの強みの原点ではないかと考えているそうです。

アジアの大学生も漫画・アニメあるいはコスプレが大人気、若者はどこの国でもいつの時代も同じようなものだと言えるのかもしれませんが、勉学に対する姿勢はかなり違うように思います。気温が暖かいから楽天的になれると言うのではなくて、夢を抱いて勉学に熱心に取り組んでいるのだと思います。日本の方が先行きのことは厳しいか

ら、日本の学生の方がもっと熱心に勉強しなければならないですが、タイでは工学部の学生は専門学科の単位取得に忙しいにもかかわらず、英語や日本語もよく勉強し、何かを伝えようと一生懸命話そうとします。今のタイの学生は自分の将来は自分で切り開くと、とても貪欲で、それでキラキラしているように思います。

今から 40 数年前、その頃の我々の目はキラキラしていたでしょうか？ どういう表情をしていたか自覚はありませんが、国鉄スト、時には教員ストも多く、資本と労働との対立とか抽象的な概念に囚われ安保闘争や授業料闘争で大学は封鎖され、そんな中で決していつもキラキラではなかったと思います。それでも東京オリンピックがあり、その後は大阪万博が続き、高速道路や新幹線が整備され、経済はどんどん拡大していたし、ありがたいことに今より就職の門戸も広がったです。自分の 20 歳の頃の事を考えると将来は何とかなるよと無自覚でしたが、自分も職を得て今に至っています。

タイの各地を巡りながら様々な思いが胸を去来しましたが、そんな中で母校 上田高校で過ごした 3 年間、その後も 40 有余年 今もまだ親しくお付き合いいただいている同期の皆さんのことを一番に考えました。まずは上田高校に入学できたこと、そして 65 期 9 組の同級生諸君に無自覚ながらも追隨してきたことが今の自分があることに繋がっていることに心から感謝したいという気持ちになりました。

関東同窓会においては同期の上原副会長と丸山幹事長とが重責を担っている中で、65 期のことを盛り上げるお手伝いをせよと、今年の新年会で皆さんから関東 65 期の代表幹事になるようにとご指名をいただきました。タイで旅行中に若者たちに接して自分の青春時代のことを思いながら、皆さんへの感謝の気持ちが少しずつ湧いてきました。少しでも皆さんのお役に立てるならば幸いであると、微力ながら務めさせていただきます。 よろしくお願ひします。

(2013 年 3 月 4 日記)

【宮原豊 略歴】

現職は、(財)海外産業人材育成協会(HIDA)海外担当アドバイザー

1973 年から 2009 年まではジェトロ(JETRO)勤務、フィリピン、アメリカ、インドに駐在し、主にアジア貿易促進や技術協力の業務に従事

【写真説明】

1. 宮原君近影
2. タイの大学での学生向け日本企業紹介講座風景
3. タイのクメール風ピーマイ遺跡



写真 2 タイの大学での学生向け日本企業紹介講座風景



写真 3 タイのクメール風ピーマイ遺跡